

魔法の言葉

広島県 萬福寺 住職 高橋道英

ある法要でのことです。開式にあたり、皆様に合掌礼拝をお願いしました。そして「合掌」と声をかけ、続いて「礼拝」と口を開こうとしたその瞬間。「いっただきまーす」、おじいちゃんの膝の中にいた五歳のふたばちゃんが元気な声で言いました。一瞬にしてその場は笑いに包まれ、和やかな雰囲気の中に法要を勤めることができなくなりました。

終わってから私はふたばちゃんと少し話をしました。「いっただきまーすって言うんだね」「うん。給食の時みんなで言うの。でもね、残したら叱られるんだよ」

私は、ふたばちゃんとの会話で気づきました。「晴れはいいけど雨は嫌。若いのはいいけど老いるのは嫌。元気はいいけど病気は嫌」という選り好みだらけの私であることに…。

体の健康は、無理をせず好き嫌いしないでまんべんなく食べることによってある程度保たれます。では、心の健康はどうでしょう。心も同じです。選り好みせず、楽しい事、悲しい事、苦しい事、全てを受け入れ頂く事によって心の健康も保たれるのではないのでしょうか。私も病を得たことがあります。周りの支えがしっかりしていれば、病気の際は病気を頂き、老いの際は老いの風景を楽しみ、辛い別れをそのまま受け止める事で心が成長していくこともあるのではないかと気づかされました。「いっただきまーす」は魔法の言葉。私は「生きる」という事は、全てを頂く事だと、ふたばちゃんに気づかせてもらいました。

(平成二十二年八月放送)